

特集

回りハ病棟で目指す “3早”——早く受け入れ、 早くよくして、早く地域へ

年が明けても新型コロナウイルスのしたたかさに医療現場の緊張が続いているが、回りハ病棟の使命は“3密”否、“3早”——急性期病院から「早く」受け入れ、入院中の多職種のかかわりで「早く（速く）」ADLをよくして、住み慣れた地域へ「早く」帰す——ことが不変の基本だ。ただしこの“3早”、どれも拙速では元も子もない。「結果」を出すための個々の力と協業、チームや組織のシステムティックな取り組みに知恵と工夫が必要である。どう取り組んで結果を出すか。

本特集では、Part1「新春座談会」（Web開催、テーマは特集タイトルに同じ）、Part2「当院の取り組みと課題」の2部構成で、以下の当協会役員・会員病院に座談会出席、原稿執筆等でご協力いただき、取り組みの現状を紹介いただいた。

Part1「新春座談会」：宮井一郎副会長（森之宮病院）、藤田正明理事（伊予病院）、花山耕三理事（川崎医科大学附属病院）、菅原英和常任理事（初台リハビリテーション病院）

Part2「当院の取り組みと課題」：熊本託麻台リハビリテーション病院、西宮協立リハビリテーション病院、あおもり協立病院、筑波記念病院